

令和6年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25501

学校名：清田小学校

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析	
体力・運動能力 ＜男子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ ○前回の記録より下回った種目 なし	全ての種目が前回の記録と同程度もしくは上回った。特に上体起こし、20mシャトルラン、ソフトボール投げの記録の向上が見られた。今回は良い結果となったため、R5 年度に行った三つの取組を継続していく。	
体力・運動能力 ＜女子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ ○前回の記録より下回った種目 なし	全ての種目が前回の記録と同程度もしくは上回った。特に長座体前屈と 20mシャトルランの記録の向上が見られた。今回は良い結果となったため、R5 年度に行った三つの取組を継続していく。	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	・「運動やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 R4 男子 100%女子：87.1% R5 男子 92%女子：71.4% ・体育の授業を除く 1 週間の総運動時間が 60 分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合 R4 男子 5.0% 女子：9.3% R5 男子 0% 女子：7.1%	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した女子の割合が R4 年度に比べ大きく減少した。運動やスポーツ好きな子どもを育成するためには、子どもによる運動機会を創出する取組を進め、運動やスポーツの楽しさを実感させることが必要となる。	
三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
具体的な取組	・子どもが運動の楽しさを実感できるような「課題探究的な学習」の推進を図る。 ・「マット週間」「跳び箱週間」を設定し、教職員による指導法の共通理解を図る。 ・1人1台端末を活用することで、知識・技能を高められるようにする。また、手本の動画を見たり、自分や仲間の動きを撮影したりすることで、自分の課題を明確にする。	・継続して取り組んでいる年間 10 回ほどの「全校なわとびの日」の充実を図る。さらになわとび以外の運動に親しむことができる機会を設定したり、環境を整えたりする。 ・運動委員会を中心に、「みんなと一緒に体を動かすことが楽しい。」と実感できるような取組を計画し、実施する。 ・ペア学年交流において長なわとびやおにごっこ等のグループ遊びを実施することで、運動の楽しさを実感できるようし、運動の日常化につなげる。	・養護教諭と連携することで、子どもが自分の生活習慣の見直しの必要性を実感し、より良い生活習慣を身に付けられるようにする。 ・薬物乱用防止の授業において、外部講師を招き、薬物の恐ろしさを理解できるようにする。 ・栄養教諭と連携して、給食指導や食育の授業を行うことで、子どもの食に関する興味関心を高める。
家庭・地域との連携・協働	・プロのスポーツ選手やコーチによる出前授業を実施し、子どもが運動の楽しさや技を学ぶことで、進んで体を動かす意欲を高める。 ・札幌国際大学と連携して、「走り方教室」や「スポーツテスト」を実施する。 ・総合的な学習の時間のキャリア教育において、スポーツに関連するゲストティーチャーを招き、スポーツの素晴らしさを子どもたちに伝える。 ・栄養教諭と連携して行った食育の授業について、学校ホームページや給食便り等を活用して家庭に伝える。		